

大濠新聞

NEXUS

2024年4月12日

Vol.220

編集・発行: 福岡大学附属大濠高等学校新聞部

福岡市中央区六本松1-12-1

印刷: 株式会社ハザマ印刷

- 2・3面 特集 ようこそ新入生！ 新担任紹介
- 4~7面 災害特集 能登半島地震
- 8・9面 校則特集 プレ生徒総会・意見交換会
- 10面 校内特集 新旧校長インタビュー
- 11面 特集 物流の2024年問題
- 12面 特集 福岡城潮見櫓の復元
- 13面 特集 マリンワールド35周年
- 14・15面 報道 部活動 柔道部、剣道部など
- 16面 特集 新聞部紹介

展望台

私は決断が苦手だ。2年前に新聞部への入部を決めたときもそうだった。当時部活に入りたいと何となくは思っていたが、どの部に入るか悩んでいた。私はいつも些細なことで決断するのに時間がかかる。部活に入るかどうかさえ悩み始めた。時間だけがどんどん過ぎていった。そんな私がこの部に入部するきっかけとなつたのは、友達から「一緒に新聞部入らない？」と誘われたことだ。その一声がなかつたら新聞部に入部することも、

このコラムを書くこともなかつた。部活に行く気にはなかった。部員たちはかけがえのない存在になつた▼新入生のなかには、部活に入るか

は、顧問の先生に声をかけられて陸上部に入部した。そして現在は日本代表の選手として活躍している。取材のな

かで今泉さんは怪我をした時に周りからの献身的なサポートに支えられたと語つ

た。私も部員と協力する楽しさに気付かされのめり込んでいた。部員とは時に意見

が合わずに対立したことでも迷っている人、どの部活に入部するか迷っている人がきっといるだろう。そんな人に私は入部してほしいと心から思

う。部活での思い出は一生のものだ。たつた一度きりの高校生活だ。大濠にはさまざまな部活がある。あなたにぴったりの部活があるはずだ。さあ職員室に行き、入部届を手に取ろう！（野見山）

江戸時代の町並みが残る（金沢茶屋街）

観光客は被災地を元気づけられるか

現地にも「来てほしい」の声



北九州市出身の中山さん

「今も不自由な生活を送る人がいる復旧途上の石川県へ観光に行つていいのか」という戸惑いを持つている人が多い。この戸惑いを伝えると中山さんは「確かに現地の方から『観光業なんかしていい場合じやない、復興を優先させるべきだ』という意見もある。一方で『観光客に来てほしい』と考える現地の方も多い。観光は現地にお金が落ちる立派な復興支援の一つだ。また現地へ行けずとも、能登でつくられた物を買うだけで支援になる」と話した。

能登への観光について「能登半島は南北に長い。半島を縦断する唯一の国道が地震の影響で通行止めになり、情報が届きにくくなっている。そこで能登デスクでは観光客の受け入れが可能

る」と話した。

「今も不自由な生活を送る人がいる復旧途上の石川県へ観光に行つていいのか」という戸惑いを持つている人が多い。この戸惑いを伝えると中山さんは「確かに現地の方から『観光業なんかしていい場合じやない、復興を優先させるべきだ』という意見もある。一方で『観光客に来てほしい』と考える現地の方も多い。観光は現地にお金が落ちる立派な復興支援の一つだ。また現地へ行けずとも、能登でつくられた物を買うだけで支援になる」と話した。



日本で唯一波打ち際を車で走れる千里浜なぎさドライブウェイ

震災当初の様子について
中山さんは「金沢周辺で大きな被害はなかった。しかし能登は被害が大きく、地震発生から2、3日くらいは自衛隊などの支援者の方々が地図を入手しに能登デスクに来た。多くの人が能登のために動いてくれて嬉しかった」と話す。

かどうか実際に現地へ行つて調べている。そして情報を随時公式X(旧Twitter)で発信している。旅行を考えている人はぜひ一度、見てほしい」と話した。3月中旬時点では羽咋市、中能登町までは日帰りで観光ができるそ



崩落した金沢城の「いもり堀の石垣」

かつた」と振り返った。最後に「時間が経つと、能登で震災があったこともだんだん忘れていく。しかし震災があつたことを頭の片隅に入れておいてほしい。風化させないためにも、SNSで能登の情報を発信する活動を続けていきたい」と熱い想いを語った。

3月15日は金沢城に外国人を含む多くの観光客が見られた。ただ、地震の影響で金沢城の石垣の一部は倒壊していた。いくつかの区域は危険性を考慮して立入りが規制されている。「被災した石垣は文化財であるため、慎重に調査を行い、学術的価値を損ねることのないよう復旧する予定だ」という旨の貼り紙があった。

金沢駅近くの金沢福祉用具情報プラザは、金沢市内のホテルなどに避難している人を対象とした、食事券の配布会場となっていた。加えて、衣服などの支援物資を配布していた。

今回取材で訪れた羽咋高校の新聞をもらってきた。3月1日に発行された第191号には、生々しい被災状況が伝えられていま

す。西館3F新聞部室の前に置いてあるのでぜひご覧ください。

東京出張のため3月14日に金沢へ行きを利用した福井県在住の片谷裕樹さんは「新幹線の延伸で東京方面から多くの人が来てくれるのは嬉しい。特にあわら温泉は利便性が上がるため観光業が盛り上がりつてい。しかし、関西方面との移動は乗り換えが発生し不便になると複雑な心境を話した。

九州でも一昨年から、福岡―長崎間は武雄温泉駅で特急から西九州新幹線へ乗り換が必要になつた。新幹線の開業・延伸は外から観光客を呼び込む一方、地元客の利

敦賀間が延伸された。そして大阪―金沢間を結んでいた特急サンダーバードは3月15日をもつて敦賀―金沢間の運行を取りやめた。

</div

プレ生徒総会 & 意見交換会 変わり続ける大濠

~校則改定の流れ~
執行部 or 生徒総会

提案 ↓
学校
審議 ↓
今ココ!

正式に改定

意見交換会は、年一度ごとに一度開かれている。この会を起點として、先生方の間で再び話し合いが行われ校則改定につながることから、会は学校全体にとって非常に大きな意義を持つ。実際に、昨年度の議題だった髪型に関しての校則は、昨年7月4日に改定されている。

今回の議題は防寒着の拡充だった。執行部がプレゼンをして、それに対し先生方が質疑応答を行うという流れで行われた。プレゼンでは、まず大濠の現状を分析した上で、他校の校則を引き合いに出し、最後に改定内容を提案した。分析には、12月に生徒に実施したアンケートや、学校指定のランドのコートの価格の比較が用いられ、裏付けを得た上で評価が実現されていた。

総務の田村緑子さん(3年)は「ただ校則を変えたいという思いだけではなく、生徒・先生の双方にとて大濠がより良い学校になつてほしいという思いを持って臨んだ。アンケートを通じて再確認

現校則の分析 (執行部作成のプレゼン資料より抜粋)

利点

- ・大濠の制服にふさわしい色とデザイン
- ・統一感がある
- ・端正な印象
- ・校訓「服装はキチンと」に適している
- ・校外で、大濠生という自覚を持って行動できる

問題点

- 指定のコートについて
 - ・価格が高い
 - ・重い
 - ・かさばり、保管が難しい
 - ・防寒機能に劣っている
 - ・自転車通学者にとって丈が長く、危険
 - ・気温や個人の体調に合わせて調節できない
- 性別で規則に差をつけることは、ジェンダーレス社会にそぐわない

実現なるか? 防寒着の校則緩和

まず現行校則を変えるために
守ろう

執行部による提案では、認できた多くの生徒がコートの自由化を望んでいるという事実を先生方に伝えられた。それが「これが可能であることができた良かつた」と振り返った。

- ①防寒対策という目的を理解し、
高価でなく、シンプルなデザイン(膝丈まで)のもの
- ②教室では鞄の中または上で保管するか、
コート掛けを利用する
- ③色は華美でない
- ④朝礼から終礼までの間は着用しない
ただし、TPOを考え職員室に入室する際は着用しない

“生徒全体”での改革

議論形式に改善点が残る

プレ生徒総会では「頭髪検査の是非」を議題とし、事前に募った6名の弁士による議論が会の核となった。弁士は3名ずつ賛成派と反対派に分かれ、15分間にわたり舌戦を繰り広げた。最後に生徒全員を対象として、頭髪検査の賛否の投票が行われ、賛成69票、反対1049票で反対多数となりた。

大石さんは「プレではあるが、高校1・2年生が全員揃った会を開催できた意義は大きい。また、弁士が資料や主張の準備を積極的に行ってくれた。一方で議論が弁士の内輪話のようになってしまい、アリーナに集まつた生徒の興味が薄れてしまったことが改善点だ」と話した。また、生徒総会本番については「行われれば約半世紀ぶりとなる。プレ生徒総会とは違い、任意参加となる予定で、会の成立には総生徒の3分の2の参加が必要だ。だから、より多



資料を手に主張を展開する弁士

大石さんは「今、大濠の校則は少しずつ変わってきている。生徒総会では、学年の壁を越えて様々な人の考へに触れられる。また大濠がどのようなり、自分たちがどう大濠を変えるのか考へるきっかけになる。大濠で過ごす3年間をよりよく過ごしたい」と呼び掛けた。

生徒総会の議題募集中!

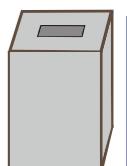
執行部・新聞部は右下のQRコードで、生徒総会の議題をはじめ投書を随時募集しています。
具体的な提案でも、ささいな気づきでも大丈夫です。
現在以下のような意見が届いています。(一部)

・ローファー指定の廃止



オンライン投書箱

投書箱便り



執行部による提案では、コートは華美でないものとされている。完全な自由化を提案しなかった理由について、田村さんは「完全な自由化が認められると、コート以外の服装や学校の雰囲気に乱れが生じるリスクがあるためだ」と説明した。また大濠生に向けて「現行の校則を変えるためだけではなく、い学校になつてほしいという思いを持つ生徒の双方にとて大濠がより良い学校になつてほしいという思いを持っている。しかし、学校をより良くする方法を考えることも自身の成長に役立つはずだ。この機会に一度考えてみてはどうだろうか。



070-8466-0676 ◎ medetaiyaropponmatsu



株式会社 積文館書店
〒811-2204 福岡県糟屋郡志免町田富1丁目1-1
(外商部)
TEL 092-957-7600
FAX 092-957-7611
<メディアを通して豊かさを創造する>

30年たったら一眼映そう! 福岡大学附属大濠高等学校同窓会

福大大濠高校 第71回大同窓会

- ・日時 令和6年5月25日(土) 受付開始17:00/開演18:00
- ・会場 キャナルシティ博多内グランドハイアット福岡

同窓会には以下の支部があります

関東、東海、関西、糟屋、筑紫、久留米つじ会、

◎懇親会や母校クラブの応援等を行っています。

会長 浅田 雅宏(20回卒)
事務局 福岡市中央区六本松1-12-1
TEL 092-714-1681
E-mail info@ohsa.jp
HP http://www.ohsa.jp

生徒会執行部が7月に生徒総会の開催を予定している。その事前準備としてプレ生徒総会が1月29日に行われた。プレ生徒総会の運営を主導した、副総務の大石祥太郎さん(3年)に話を聞いた。また2月7日、執行部と生徒課を中心とした先生たちとの間で、校則について議論を交わす意見交換会が行われた。

(四宮、永嶋)



プロ野球選手の卒業生から贈られた色紙と曾野前校長

Q. 口口ナ禍の任期を振り返つてどうでしたか。
A. 校長に就任した2020年度は新型コロナウイルスの感染拡大が始まり、休校や分散登校から始まりました。甲子園やIHなどの目標としていた大会が中止され、受験もコロナに左右されました。特に3年生が精神的な面でも心配で、なんとか支えようという気持ちでした。そんななか2021年は3月に硬式野球部が春の甲

しなやかな 大濠の力に感心

Q. 口口ナ禍の任期を振り返つてどうでしたか。

A. 前校長が退任した。曾野先生と、今年度から校長を務める田中慎吾先生にインタビューした。(永嶋)

人間性を大事に

新旧校長インタビュー



優しく気さくに生徒に寄り添う田中新校長

昨年度をもつて曾野正純前校長が退任した。曾野先生と、今年度から校長を務める田中慎吾先生にインタビューした。(永嶋)

Q. 口口ナ禍の任期を振り返つてどうでしたか。
A. 前校長が退任した。曾野先生と、今年度から校長を務める田中慎吾先生にインタビューした。

道徳心が最後の 力ぎを握る

Q. これからの大濠をどんな学校にしていきたいですか。

A. 大濠の建学の精神は「道徳教育を通じて人間性を高める」です。これをきちんと守っていきたい。昔の大濠は道徳教育が売りで、挨拶やコミュニケーションをしっかりと教える学校でした。態度が良くて品がある。マナーを守り、はじめもつけられる。そういう点で社会から評価されていました。しかし、最近

は近所の方から交通マナーなどを指摘されることが多くなりました。私も教頭として「大濠の道徳教育はどうなったのか」、「勉強や部活だけできればいい学校になつたのか」といった声を聞いてきました。

Q. 校則や学校の制度改定についてどう考えていますか。

A. 大濠には75年の歴史があり、様々な出来事があった上で今の校則や制度があります。現在の社会情勢といふのは一種の流れりのようなものですから、それに則つて制度を変えても数十年後振り返ったときに、それが最善だったと言えるかはわからない。変えなくてはいけない点もあつたときには、それが最善だったと想われるかはわからない。変えなくてはいけない

Q. 大濠生へメッセージをお願いします。

A. 学校には勉強をしに来るだけではない。私は勉強はもちろん、道徳心を養い人間性を高めるところだと思っています。人とコミュニケーションをとつて、日々、道徳心を養う。そうすると勉強も部活動も集中できるようになります。進学が上手くいくのも、その先の人生で大事になつてくるのは、人間力です。いつも気持ちが落ち込んでいる人が最後、力を発揮できると思います。

Q. これからの大濠への思いを教えてください。

A. 私は、生徒が十分に活動できるように学習、部活動の環境を施設面で整えました。だから生徒の皆さんには施設を大切に使って、これからも自分たちできれいな状態を保つていくという意識を持つてほしいです。

Q. 最後に大濠生へ一言お願いします。

A. 生徒の主体性に任せ、生徒会を中心に自分たちで原案を考えるという改定の形は非常に好ましいと思いました。自分たちが変えようと意志を持つば、変えられるなど、心配もないときは誰だつて力を発揮できます。

Q. 木村カバン店へお任せを！
A. 木村カバン店へお任せを！

福岡市中央区天神 2-9-114 tel 092-741-2429

KIMURA
木村カバン店

カバンならお任せを！
気楽にご来店ください！



事業継承し異業種の社長に

拘束時間、1週間に拘束されると、赤塚さんは「2024年問題」を説明した。方改革関連法により自動車運転業務の時間外労働が年間960時間にまで制限されることで発生する。以前は法律上に残業時間が規制はなかった。後者は、働き方改革関連法に基づき、改善基準告示という厚生労働大臣が指示した細かい規制によって発生する。こちらの方が大きな問題だ」と

赤塚さんは、「2024年問題には狭義のものと広義のものがある。前者は、働き

時間外労働時間と休憩時間など

2つの 2024年問題

今年4月1日に自動車運転業務に関する働き方改革関連法が施行された。それに伴い物流の「2024年問題」が注目されている。九州エリアや九州～関東間で食品の倉庫間輸送を行っている株式会社アラトの代表取締役の赤塚亮太さんに取材し、物流の2024年問題について現場への影響や対策を聞いた。

(野見山、古田)

時間外の休み（自宅での休息など）を指す。休憩時間（サービスエリアでの休憩など、仕事中の休み時間）とは別物だ。拘束時間は、休息時間と労働時間を合わせたものだ。赤塚さんは自社は問題なく対応できているとした上で、「拘束時間関連の規制は、改正前でも守れていらない業者が多い。会社によつては改正後も遵守しないだろう。実際どうなるかは改正後でなければ分からぬ」と語る。また「日本は会社に対する法律の強制力が弱い。重箱の隅をつくような法を施行するより、ドライバーの健康や生活に悪影響を与えている要因を実行力のある取り締まりを実施するほうが重要だ」と強く語った。

今回の改正における政府

ドライバーの待遇改善なるか

の狙いについて、赤塚さんは推論を述べた。それは多すぎる運送業者の淘汰だ。90年代以降の規制緩和により、日本には小規模運送業者が増加した。違法かつ低賃金で従業員を働かせ、安価に仕事を請け負う会社も多い。そのような会社を

減らせば、結果として業界全体の賃上げにつながり、従業員の生活の質も向上する、と政府は企図しているようだ。赤塚さんは「社会はこのようないい方の人々の活躍で成り立つている。ドライバーは、自分たちが世の中を光が当たって良かった。近年は人材確保が難しくなつてるので、人を呼び込むきっかけになるとい」と笑顔を見せた。

2024年問題への対応として個人でできることを聞くと「食品や日用品などの値上げを受け入れることだ。私たちには、値上げに對して感情的になるところがある。しかし、販売価格が上がつても値上げ前と同じ量売れで初めて運賃を上げられる。デフレマインドを捨て去ろう。価値あるものは正当な対価を支払うべきだ」と話した。

会社によつて2024年問題への対応は様々だ。アラトでは運転時間を減らすため、大阪まで名門大洋フェリーを利用して高速道路代に比べて高い。ただ、思い切つてお客様に相談をして幸いにもご理解をいただけた。何とか対応できることとなり、お客様に恵まれている」と感謝した。



約 12t の荷物を積むことができる

値上げを
受け入れよう

**医療法人
畠山内科胃腸科クリニック**

〒810-0024
福岡市中央区桜坂1-3-31
(地下鉄七隈線「桜坂駅」より徒歩1分)

TEL & FAX 092-761-7453

院長 畠山 定宗

TANAKA
焼肉専門
精肉店

福岡市中央区六本松1丁目10-3
tel 092-731-2177



@TANAKA_SEINKUTEN_STAFF

※お弁当購入時に本紙持参でお肉29%増量致します！

江戸時代の潮見櫓をもう一度

福岡城

正しく伝わる
名前が



崇福寺の仏殿になっていた潮見櫓(左)

1600年、関ヶ原の戦いの後に黒田長政によって建てられた福岡城。江戸時代、福岡城内には潮見櫓や花見櫓を含む47の櫓が存在したといわれている。櫓は敵が攻めてきた時に、侵入を防ぐための攻撃の拠点として利用する。平和になった江戸時代には主に倉庫として使われていた。

明治時代以降、城跡は県庁や陸軍の駐屯地となり、一部を除いて建物は失われた。ほとんどは築260年以上の建物であり、ボロボロだつたため壊されてしまったのだ。大濠高校から見えると呼ばれている。

多聞櫓は嘉永6年(1853)年に修理されたため、陸軍の兵舎として利用され、現在まで残っている。

福岡城跡は国指定の史跡であるため、根拠に基づいて形を正確に復元する。そのために、様々な資料を用いて本来の櫓の形や仕組みを調査する。復元計画を文化

城の歴史を語る
大塚さん(左)と内田さん(右)



「昔のまま」
を大切に

昨年1月25日から、かつて福岡城の北西端に位置した潮見櫓の復元整備工事が始まった。2025年2月に完成予定だ。貴重な文化財をどのように復元しているのか。工事現場を見学しながら取材を行った。
(古田、松本)



黒い梁が江戸時代からの部材の再利用分



製か鉄製かな
また、瓦も
再利用する。



▲発酵させると臭う

乾くと骨組みの箇所が浮かび上がる

壊されなかつた他の建物は城外に移築されたが、名前が正しく伝わらなかつた。潮見櫓も例外ではない。平和台陸上競技場の北西にある櫓が潮見櫓だといわれていたが、平成3年に

岡市経済観光文化局の福岡城跡整備係長の大塚紀宜さんは「これほど長い時間

経て2021年に復元許可が下りた。潮見櫓判明から許可まで28年が経つた。福岡市は「足りない瓦は石垣に負担をかけないように上に鉄筋コンクリートの基礎を組んでいる。

大塚さんは「足りない瓦はオーダーメイドで久留米の業者に依頼している。しかし現在、手作りの瓦製造業者の数はごく少ない」と話す。櫓の壁は土壁だ。竹と藁で編んだ骨組みの上に壁土を塗る。壁土は工事現場の隣で、藁と熊本県の上等な土、水を混ぜ、1年以上発酵させて作っている。乾くと縮るので、再び土を塗り重ねる。これを何度も繰り返すことことで頑丈になる。



ブルーシートは選別済みの印

您好！朋友
ニイハオ ボンユウ
TEL 092-(731)8458

福岡市中央区六本松2丁目7-7 沢津ビル1F

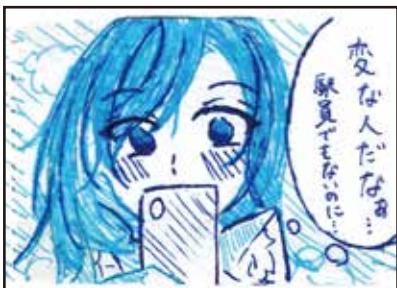
博多きょうう重
ふぐ・あら・すっぽん
古賀 大規 1998年卒

西鉄薬院駅徒歩3分
福岡市中央区渡辺通2-3-24



営業: 17:00~22:30(日曜定休)
TEL: 092-771-1818

四コマ漫画 by りんごあめ



顧問

奥田顕祐先生

横関浩司先生

白石夢
(姪浜)四宮将太
(大濠)野見山尚丈
(大濠)松本梨央
(筑紫丘)安武ちひろ
(柏原)古田悠乃
(姪浜)吉田知生
(大濠)弥富右恭
(花畠)大坪和真
(内浜)

部長	水沼詩央里 (大濠)
編集長	永嶋水稀 (原北)

部員
(出身中学)

(出身中学)

新聞部つて 何するの？

現在新聞部は、3年生9名、2年生3名の計12名で「大濠生を巻き込み、親しみを持てる新聞を」をモットーにして活動しています。

主な活動内容として本紙「大濠新聞NEXUS」を年に4回、速報紙「FLASH」を不定期で発行しています。「大濠新聞NEXUS」は校内外を問わず、幅広い内容を取り扱っています。通常16面フルカラー、3000部を発行しています。企業や公的機関、大濠生や先生など様々な人に取材を行い、公正中立な記事を目指して作成しています。



福岡城の再建現場で取材する

今年で15年連続全国大会出場 新聞部員募集中！

く活動紹介く

祭や文化祭といった学校行事や、部活の全国大会の結果など大きな出来事がある際に発行しています。校内の様々なところに掲示しているので、気軽に見てください。

新聞部では、記事案の決定、取材、記事書き、校正、といった新聞作成のほとんどの工程を部員が行っています。また、印刷費用のため、広告を自分たちで集めています。現在、主に毎週木曜日に活動しています。

活動日には編集会議を開き、記事の進捗報告、記事

の方向性の確認、担当割り決めを行っています。何回も編集会議を重ねることで記事内容が深まります。

自分の書いた記事を顧問の先生や部員に校正してもらうことで、初めて記事を読んだ人が内容を理解できるか、公正中立な紙面であるかといった客観性をもつた記事になります。そのため、レイアウトが大幅に変更になるときもあり大変ですが、完成したときの喜びも大きいです。

新聞部では様々な技術を新聞作成のなかで身につけることができます。文章力やカメラの撮影技術はもちろんのこと、読解力やコミュニケーション能力を培うことができます。

部員の多くは入部当初、新聞作成の初心者でした。新聞作成の技術は先輩に基づ本的な事項を教えてもらいその後は自分たちで開発

多様な経験を 積める部活

部員の一人は「中学生の頃は国語が苦手で入試でも足を引っ張っており、特に作文は苦手だった。しかし、先輩からの勧誘で新聞部に入った。入部して、普通に高校生活を送っていては味わえない体験をすることができた。例えば、全国トップクラスの高校バスケの試合でゴール下から写真を撮った。また、法廷で模擬裁判を体験した。文章を書く立場についてからは現代文が得意になり、1年の最初のテストは56点だったが、2年生になつてからは82点まで上がった。校正で文章を読むことが増え、論説文などを読むのが好きになった。部活での刺激から社会で起きた出来事に対して自分の意見を持つこともできた」と言います。

私たち第71期生は今号をもつて新聞部を引退します。私は昨年の春から1年間編集長として活動してきました。上の代では編集長に負担が集中して大変そうで、先輩たちを尊敬するとともに自分がその役職を務めるということには重責を感じました。しかし、私たちの代では部員たちが積極的に活動し、協力し合つたため、まるで編集長が何人もいるようでした。締め切りや学校行事の前など、忙しくて大変だと思うことも多

編集後記

かつたですが、他の部員が頑張っていたから、みんなと部室で作業するのが楽しかったから、自分も頑張ろうとみんなと一緒に頑張ってくださいましたが、自分も頑張ろうとこの2年間での取材を通して、貴重な話を聞いたり普段できない体験をしたりできました。取材を受けてくださった方々、本当にありがとうございました。これは第72期生を中心になりました▼来号、221号から第72期生を中心を作成します。これからも新聞部への応援、よろしくお願ひします！(永嶋)



パソコン操作もお手の物